

試験研究評価シート（事前）

評価の種類	事前評価			担当名	
課題名 (研究テーマ)	ドクダミ茶の有効成分分析と製茶法の検討			製薬衛生担当	
研究期間	平成30～31年度	予算額 (千円) 507	次年度 (千円) 507 [総事業費] 1014	予算種類	国補・ 県単 その他()
必要性	<p>ドクダミにはケルシトリン等のフラボノイド配糖体等が含まれ、昔から民間薬として広く用いられてきた薬用植物である。花期の地上部を乾燥させたものは日本薬局方に生薬として「ジュウヤク」の名で記載され、医薬品として利用されてきたほか、解毒や利尿作用のあるお茶としても利用されてきた。</p> <p>近年、県内の生薬会社や徳島県立農林水産総合技術センターでは、ドクダミの安定供給と地域の経済活性を目標として、国の事業等を活用した栽培実験を実施しており、営利栽培化に向けての技術試験を開始している。ドクダミは花期収穫後にも収穫することができ、それらは主にお茶として利用されるが、その成分分析等は実施されておらず、品質確保のための成分分析が望まれている。また、当センターが実施している薬草教室においても、参加者からドクダミ茶の作り方に関する質問が多く、県民の関心も高い。</p> <p>花期のドクダミを用いた製茶法の検討報告はあるが、成分分析はされていない。また、花期収穫後のドクダミを用いた製茶法の報告事例はない。</p> <p>花期収穫後のドクダミについて、より品質の高い製茶法を検討することは、高価で買い取られる花期の地上部以外について商業的利用価値を高めることにつながる。また、効果的なドクダミ茶の飲み方を県民に発信することによる健康増進を啓発できる。</p>				
目標	花期収穫後のドクダミについて、有効成分量が高い健康茶としてのドクダミ茶の製茶法を検討する。得られた知見を、農林部局、県内企業、団体及び薬草教室等を通じて県民に還元し、地域経済活性及び健康増進に寄与する。				
研究内容	ドクダミ茶中の主な有効成分としてフラボノイド配糖体をターゲットとして、最適な製茶法（乾燥条件、抽出条件等）を検討する。試料は当センターの薬用植物園で栽培したものを使用する。				
手法	①フラボノイド配糖体の測定条件の検討(高速液体クロマトグラフィー等) ②乾燥ドクダミの水抽出条件（温度・時間等）の違いによるフラボノイド配糖体の含有量比較 ③ドクダミの乾燥条件の違いによるフラボノイド配糖体の含有量比較 ④花期と花期収穫後のドクダミ茶のフラボノイド配糖体の含有量比較 ⑤味、色、におい等を含めたお茶としての品質評価（試飲アンケート調査）				
その他					